

【佳作】

「水の未来」

登米市立豊里中学校

一年 阿部眞花

みなさんは水について考えたことはありますか。

私が水について深く考えるようになったきっかけは、総合的な学習の時間で「水」について調べる授業をしてからです。その時間では、水は私たちにとってどのような存在かということや水についてもっと知りたい事などを考えて、友達と意見を交換し合うという事をしました。でも、その時の私は、「なんでわざわざこんな身近にある水の事を勉強するんだろう……」と思っていました。

ある日、学校の総合の時間に環境講話をするために、特定非営利活動法人、海の自然史研究所の平井和也さんに来ていただきました。

平井さんは、このまま海の状態が変わらないと、二〇五〇年までにプラスチックゴミの量が魚の量を上回ってしまう。と話していました。他にも、マイクロプラスチックの影響により、私たちの体にも害をもたらす可能性があるということを聞いて、私は驚きと同時にこのまま変わらないと本当に世界の未来が危ないという危機感を持ちました。

また、平井さんに用意していただいた、大きい箱に入った砂にうまっているゴミを取り除くという体験をしました。体験してみると、思ったよりも難しく、実際にビーチクリーンをしている方々の大変さが身に染みて感じました。

この講話を聞いて、私は自分たちが捨てたゴミは、めぐりめぐって私たち人々の体にも害をもたらしてしまい、未来が危なくなっている状況だということを改めて知ることができました。この経験から、私は海についてもっと理解し、自ら行動に移していかなければいけないと思いました。

後日、自分たちが世界の環境のためにできることは何かと考え、ビーチクリーンをすることにしました。私は友達と一緒に白浜海水浴場に向かいました。海水浴場はとてもきれいにされていました。しかし、人の手が届いていないような場所へ行ってみると、平井さんのお話の通り、空のペットボトルやプラスチックのかけらなど、海から流されて来たゴミがいっぱい落ちていました。そのゴミを自分たちで拾い集め、きれいにしました。

この経験から、今まで自分とは関係ないと思っていたプラスチックのゴミ問題は、とても身近なものになりました。

一か月後、私は本州の最北端「大間崎」という場所へ行きました。大間崎からは、北海道の函館を見ることができました。しかし、その帰り道に海辺を通っていると、今まで見たことがないくらい、大きなプラスチックゴミや外国のゴミなどが見渡す限り広がっていました。その時の光景はとても衝撃的でした。「プラスチックのゴミ問題が深刻になっている」ということを改めて実感し、平井さんが世界の人々へ必死に伝えようとしている気持ちがよく理解できました。

実際に、家や学校の周りを歩いていると、アイスやコンビニ類のゴミがたくさん落ちています。特に、公園にポイ捨てをしている人が多いように感じます。私は、公園を利用する人は責任を持ってゴミを持ち帰るべきだと思います。

最後に、今の生活の中にきれいな水があるのは当たり前ではなくて、とてもありがたいことだということが分かりました。そして、自分にできることを見つけ、行動することの大切さを講話を通して知ることができました。これからも、安心して生活ができるように、積極的に自然活動に参加していきたいと思っています。

みなさんも自分たちの未来のために、行動に移してみませんか。